

## 九州大学箱崎キャンパスにおける土壤汚染調査の結果について

本学は、箱崎キャンパスの移転に伴い、同キャンパス旧工学部 2 号館跡地において土壤汚染調査を実施したところ、下記の表に示すとおり、調査箇所の一部で土壤汚染対策法に基づく指定基準を超える水銀・砒素・鉛・六価クロムが検出されましたので、平成 28 年 6 月 27 日に土壤汚染対策法第 14 条（※ 1）に基づく区域の指定を行うよう福岡市へ申請いたしました。

このことにより、旧工学部 2 号館跡地については、今後、福岡市から土壤汚染対策法に基づく区域の指定を受けることとなります。

今回の調査結果を受けて、大学構内で現在使用中の井戸水及び境界付近に新たに設置したモニタリング井戸の地下水の調査を実施しましたが、有害物質は検出されておりません。また、当該汚染箇所は工事用仮囲いで区画し、シートで覆うなどの処置をしており、土壤が飛散する可能性が極めて低く、周辺的生活環境への影響はないものと考えております。

今後は、関係行政機関の指導のもと、責任を持って万全な体制で土壤浄化への対応を進めてまいります。なお、後日、周辺住民の方々への説明会を開催いたします。

また、他区画においても順次調査を行っているところです。結果が判明次第、今回同様、公表してまいります。

	検出物質	基準値超過区画／ 調査区画	最大値	基準値
土壤溶出量(mg/l) (※ 2)	水銀	5 0 / 1 9 0	0.045	0.0005 以下
	砒素	1 3 / 1 9 0	0.11	0.01 以下
	六価クロム	1 / 1 9 0	0.07	0.05 以下
土壤含有量(mg/kg) (※ 3)	鉛	1 / 1 9 0	1300	150 以下

注) 190 : 旧工学部 2 号館跡地の全調査区画数 (1 区画=10m×10m)  
砒素 13 区画のうち 6 区画については、水銀との複合汚染区画

### <調査等の実施日>

1. 土壤汚染調査 (状況調査・詳細調査)  
平成 27 年 7 月 17 日～平成 28 年 5 月 27 日
2. 構内井戸水及びモニタリング井戸の地下水の調査  
平成 28 年 6 月 1 日～平成 28 年 6 月 26 日

### <土壤汚染対策法に基づき指定を受ける区域>

福岡市東区箱崎 6 丁目 3330 番 3 の一部 5,900 m<sup>2</sup>

※水銀及びその化合物等の検出地点については、別紙資料のとおりです。

(※ 1) 土壤汚染対策法第 14 条 : 自主的な土壤汚染調査に基づき区域の指定を行うよう申請ができる。

(※ 2) 土壤溶出量 : 土壤に水を加えた場合に溶出する有害物質の量

(※ 3) 土壤含有量 : 土壤に含まれる有害物質の量

【お問い合わせ】九州大学企画部統合移転推進課 大熊, 福岡

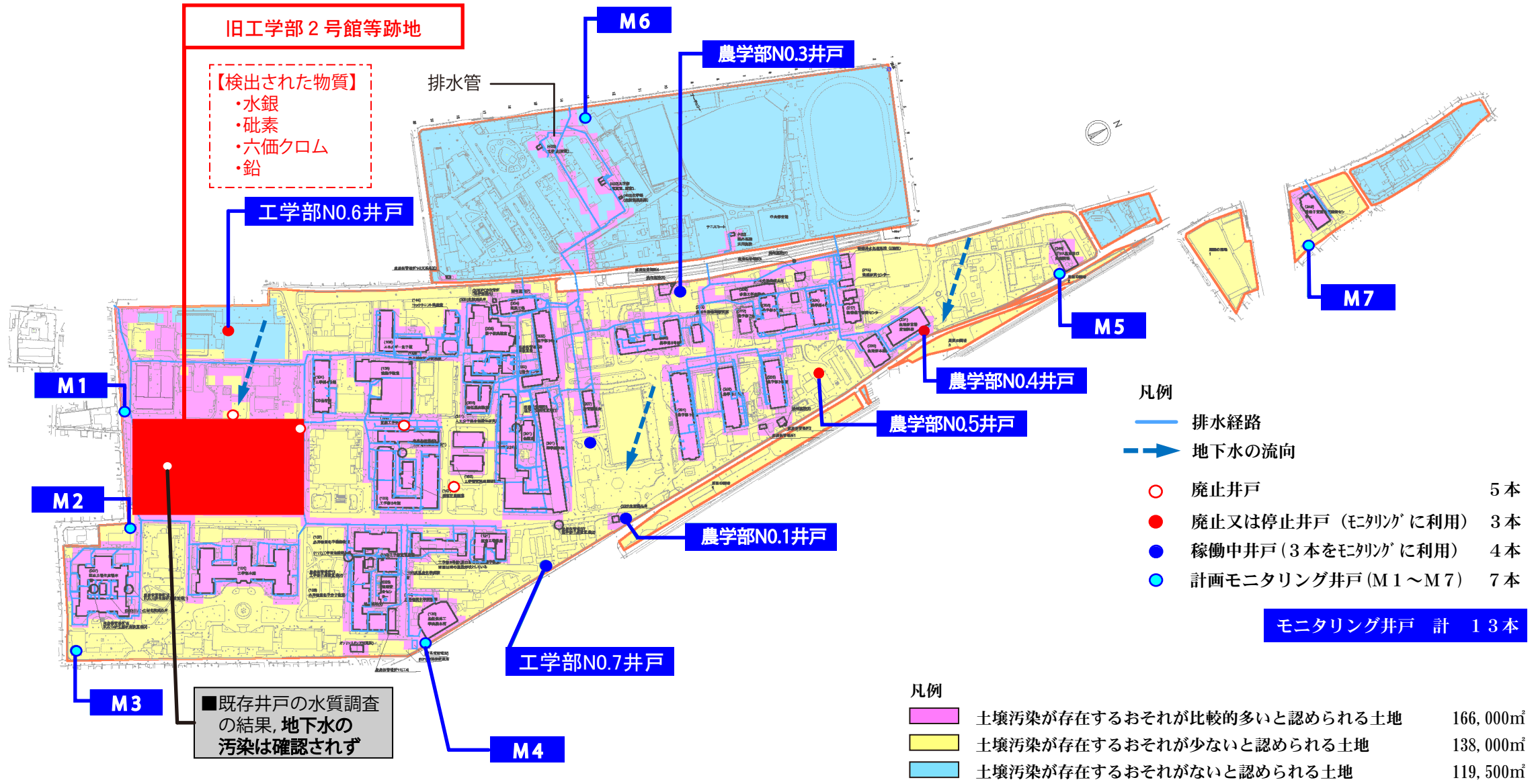
電話 : 092-642-3051, 7645

FAX : 092-642-7373

Mail : kitleed@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL : <http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/campus/hakozaki-campus/soil>

# 箱崎キャンパス 土壌汚染地歴調査平面図 (モニタリング井戸配置計画図)

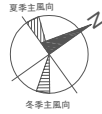


0 10 50 100 200m

注) 平成28年3月18日の地歴調査結果に基づく最新の土壌汚染地歴調査平面図です。

凡例の土壌汚染のおそれの区分は、環境省の「土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン（改訂第2版）」による。

# 汚染深さ一覧図 S=1:800



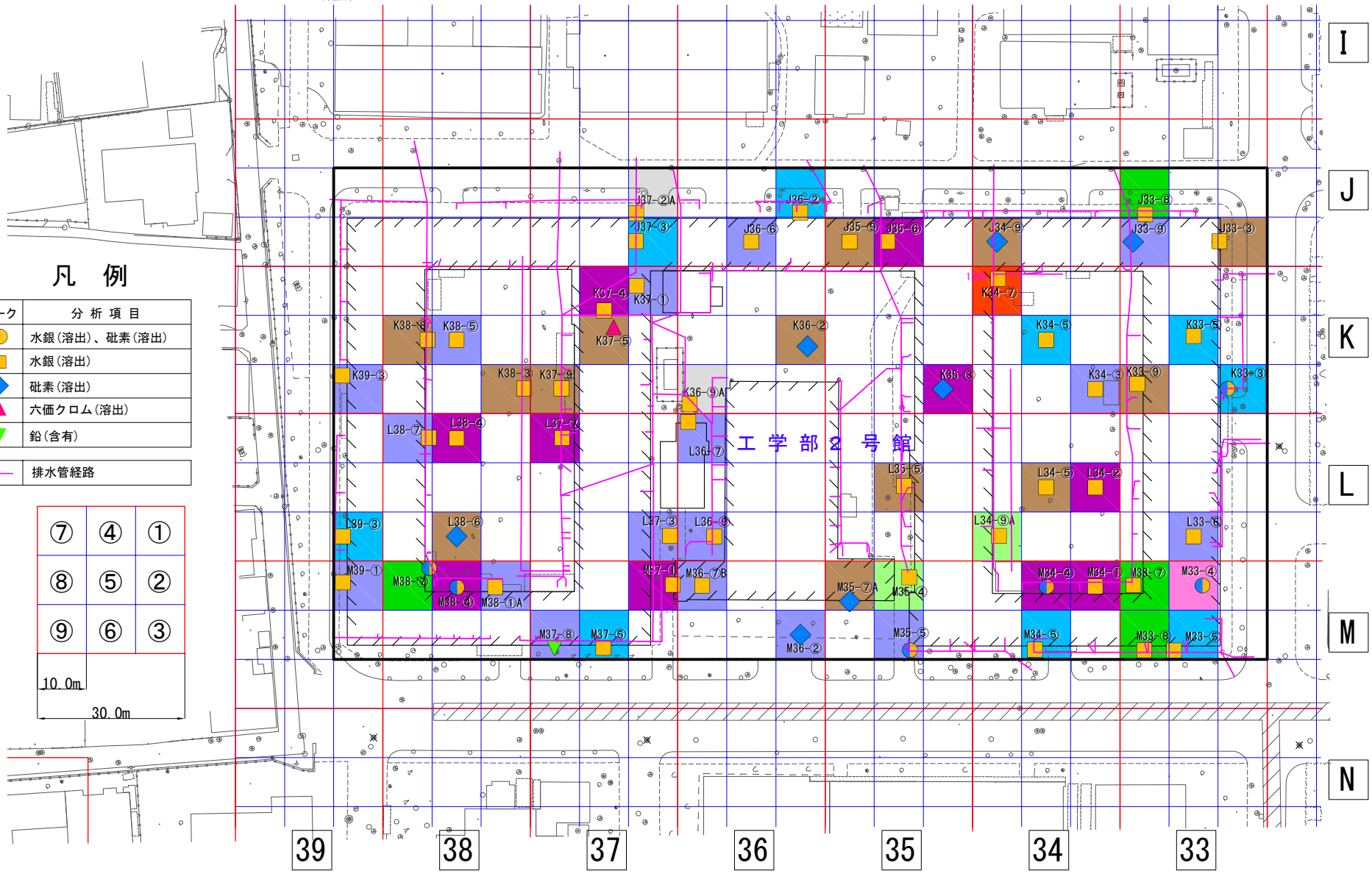
## 凡例

マーク	分析項目
	水銀(溶出)、砒素(溶出)
	水銀(溶出)
	砒素(溶出)
	六価クロム(溶出)
	鉛(含有)
	排水管路

⑦	④	①
⑧	⑤	②
⑨	⑥	③
10.0m		
30.0m		

### 汚染最深深度

	汚染無し
	0.5mまで
	1.0mまで
	1.5mまで
	2.0mまで
	2.5mまで
	3.0mまで
	3.5mまで
	4.0mまで
	4.5mまで



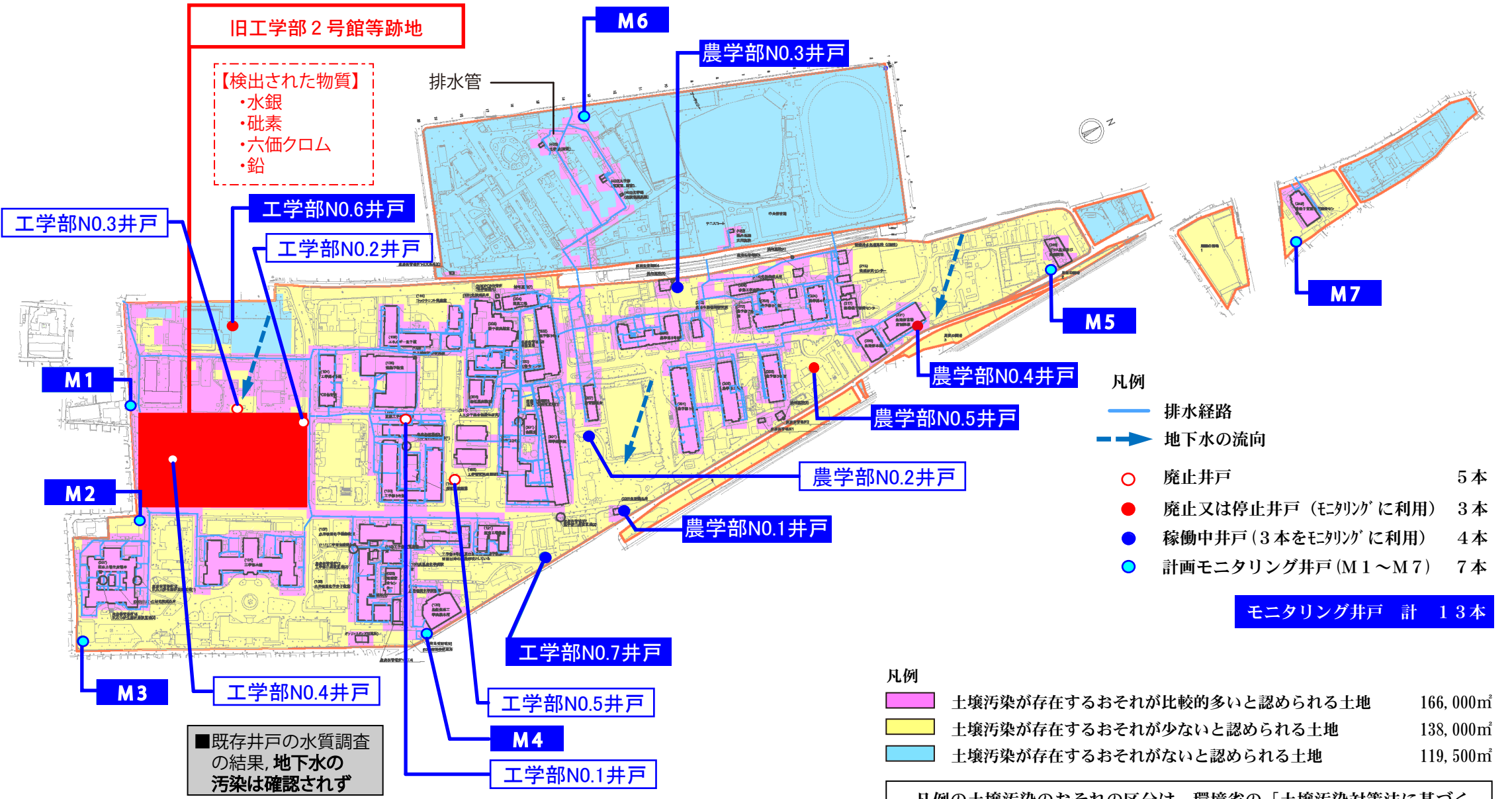
○箱崎キャンパス 既設井戸及びモニタリング井戸の水質検査一覧表

種別	年 度	井戸の 状況	H19 定期検査	H20 定期検査	H21 定期検査	H22 定期検査	H23 定期検査	H24 定期検査	H25 定期検査	H26 定期検査	H27 定期検査	H28 緊急調査	備考
既設井戸	工学部 No.1	廃止	○	○	○	○	○	12月廃止	—	—	—	—	水枯れ
	工学部 No.2	廃止	○	○	○	○	○	○	○	○	6月廃止	—	建物取壊しのため
	工学部 No.3	廃止	○	○	○	○	○	○	○	○	6月廃止	—	建物取壊しのため
	工学部 No.4	廃止	使用停止	—	—	—	—	10月廃止	—	—	—	○	建物閉鎖のため 跡地緊急調査
	工学部 No.5	廃止	廃止	—	—	—	—	—	—	—	—	—	水枯れ
	工学部 No.6	廃止	○	○	○	○	○	○	○	○	11月廃止	○	敷地境界モニタリング 代用井戸 建物取壊し
	工学部 No.7	稼働中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	敷地境界モニタリング 代用井戸
	農学部 No.1	稼働中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	敷地境界モニタリング 代用井戸
	農学部 No.2	稼働中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	モニタリング 井戸としては使用せず
	農学部 No.3	稼働中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	敷地境界モニタリング 代用井戸
	農学部 No.4	停止中	○	○	○	○	○	○	○	使用停止	—	○	敷地境界モニタリング 代用井戸
農学部 No.5	停止中	○	○	○	○	○	○	○	使用停止	—	○	敷地境界モニタリング 代用井戸	
モニタリング井戸	M1											○	平成28年6月モニタリング 井戸設置
	M2											○	
	M3											○	
	M4											○	
	M5											○	
	M6											○	
	M7											○	

凡例 水道法水質基準項目と重複する土壤汚染対策法の特定有害物質 : ○=不検出 ×=検出

赤字は、モニタリング井戸及びモニタリング代用井戸を示す。(土壤汚染対策法の有害物質25種類を調査)

# 箱崎キャンパス 土壌汚染地歴調査平面図 (モニタリング井戸配置計画図)



旧工学部2号館等跡地

- 【検出された物質】
- ・水銀
  - ・砒素
  - ・六価クロム
  - ・鉛

凡例

- 排水経路
- 地下水の流向
- 廃止井戸 5本
- 廃止又は停止井戸（モニタリングに利用） 3本
- 稼働中井戸（3本をモニタリングに利用） 4本
- 計画モニタリング井戸（M1～M7） 7本

モニタリング井戸 計 13本

凡例

- 土壤汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地 166,000m<sup>2</sup>
- 土壤汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地 138,000m<sup>2</sup>
- 土壤汚染が存在するおそれがないと認められる土地 119,500m<sup>2</sup>

凡例の土壤汚染のおそれの区分は、環境省の「土壤汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン（改訂第2版）」による。

■ 既存井戸の水質調査の結果、地下水の汚染は確認されず

注) 平成28年3月18日の地歴調査結果に基づく最新の土壌汚染地歴調査平面図です。